

学生支援の現場から

◆山口大学
働くことをもっとリアルに！

平尾 元彦
(学生支援センター 教授)

「わたしって、本当に働けるのでしょうか？」
久しぶりに就職支援室を訪ねてくれた学生の口から出たのは、こんな言葉でした。就職活動に苦勞して苦勞して、ようやくつかんだ内定の報告。そのわりには元気がなく、出てくるのは「どうして私が選ばれたのかわかりません」「仕事できるかどうか不安です」のような後ろ向きな言葉ばかり。よくよく聞いてみると、サークル活動はしておらず、アルバイトも無し、クラスで討論することや、皆の前で発表した経験は無く、家族以外の社会人と働くことについて話したことも無い。就活はしたものの、彼女にとって働くことは、ずっと遠い存在であったようです。社会に出ること、働くことは、学生誰もが不安に思うこと。そういう思いを抱きながらも、卒業後の道を自分のなかで理解し、

活動し、決めていく。働くことを現実の問題としてとらえる力もまた、大学生にとって必要、かつ、重要な力と言えるでしょう。

山口市および宇部市に立地する山口大学は、豊かな自然に囲まれ、勉強やスポーツ活動に励むにはとてもよい環境です。しかしながら普段の生活圏のなかにビジネスの風を感じることは、あまり無いのかもしれませんが。だったら学内にリアルな風を吹かせようと、いま山口大学では、インターンシップの推進に加えて、OB・OGや人事担当者、経営者など、働く人たちをキャンパスにお招きして直接語りかけていただく取り組みをいれています。十一月から二月にかけて開催する学内業界・企業研究会は、山大学生にとっての「学びの機会・出会いのチャンス」。働くことへの理解を深めるためにキャリア教育の一環として開催する研究会です。キャッチフレーズは「働くことをもっとリアルに！」。平成二〇年度は期間内に約四〇〇社の企業・官公庁にご協力いただきました。多くの働く方々との対話を通じて、自分自身の進路を明確にしていきます。また、就職支援室には、働くことを研究するための書籍の特設コーナーをつくり、学びの機会を拡充しています。



学内業界・企業研究会
(吉田キャンパス)



学内業界・企業研究会(常盤キャンパス)



働くを研究する書籍コーナー

なるような気がします」。

これからの働く場面では、厳しいこともツライこともあるでしょう。一方で喜びも達成感もきっとあります。どのような場面に遭遇しても歩んでいける力を山口大学で育んでほしいと願いつつ、一人ひとりの学生にしっかり向き合った支援をしていきたいと考えています。

さて、冒頭の学生ですが、じつくり話を聴いて共感したうえで、「だったら、やってみよう」と、ジョブカフェ山口の協力による社会人ミニ講座を開講。少しだけではありますが、働くことを学びました。最後に彼女が言った言葉は「なんとかなる」。